

(別添 4)

【春日部市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

問題解決能力や情報活用能力などの汎用的な能力を育むために、1人1台端末をマストアイテムの文房具としてフル活用し、クラウド活用を前提として児童生徒自身が学びを調整する「児童生徒一人一人が主語の複線型の学び」等を通して、個別最適な学びと共同的な学びが一体的に充実され、主体的・対話的で深い学びが充実した姿。

2. GIGA第1期の総括

令和2～3年度に、1人1台端末16,979台、各教室に65型大型提示装置519台、端末1台あたり0.5Mbps程度の通信速度を確保できる校内通信ネットワーク環境を整備した。

令和3年度から本格的な運用が始まり、児童生徒は基本的な操作を練習した後、インターネットを使って自分で調べ、考えをまとめて発表するといった学習に取り組んだ。

令和4～5年度には、1人1台端末の活用は更に進んだ。例えば、算数・数学の授業では、児童生徒が教職員から配布されたデジタルワークシートの図形に、補助線を引いて図形の面積や体積を求積した結果を入力し、それを教員に提出するといった、教職員と児童生徒がやりとりする場面が増えた。また、体育の授業では、自分が考えた作戦を端末に書き込んでチームで共有し、ゲームを行う度に修正するといった、児童生徒同士がやりとりする場面が増えた。

このように、児童生徒個別の学習から協働的な学習まで、1人1台端末の日常的な利活用が進んだ。このほか、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインを活用した朝の会や健康観察、授業配信等を行い、児童生徒の学びを止めないための教育活動の工夫を行った。

3. 1人1台端末の利活用方策

今後の端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をさらに進める。例えば、端末を使って必要な情報を集めながら、児童生徒1人1人が自由に考えた後、オンライン上でお互いの考えを共有するといった、児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面を増やすことが想定される。

この他にも、不登校児童生徒や、障害のある児童生徒、病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて、オンラインを使った授業配信等の支援、希望する児童生徒への端末を活用した教育相談、端末の翻訳機能を使った外国人児童生徒に対する学習活動等の支援等にも取り組む予定である。